真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月13日

事務事業名	ことばの教室事業		担当課・係	健康福祉部　こども家庭課　こども家庭課　母子健康係
政策名　No	2	「笑顔づくり」～安心と元気アップ！～	関連するSDGs･DX	
施策名　No	1	子育て支援の充実		

	名　称	初年度からの実績値の比較						目標値
		単　位	R7	R8	R9	R10	R11	R11
成果指標	合計特殊出生率	%	1.09					1.54
	この地域で子育てをしたいと思う親の割合	%	98.5					維持

事業内容

・言葉の発達に遅れのある就学前の幼児に対して、個別指導により微細運動や言語能力を養うほか、保護者面談を実施し、児への関り方やことばのかけ方について支援し、保護者が安心して就学を迎えられるよう支援する。
・令和7年4月から複合交流拠点施設monacaへ移転して実施。　・毎週または隔週、1回あたり50分間の専任指導員２名による個別指導を実施。
・幼稚園、保育園訪問実施し、行動観察、園と情報交換実施。　・学校教育課での就学相談の案内実施。
・学校教育課、母子健康係保健師との情報交換会を実施。　・就学前の幼児が21名に対し、延べ491回の指導を実施した（R6）。
・言葉に遅れがある幼児のうち、ことばの教室利用割合は減少している。これは、障害認定を受け、他機関で療育の訓練・指導を受ける割合が多くなったためであるが、障害認定を受けていない幼児にとって、ことばの教室に通うことで一定の成長が見られていることから、事業の継続は必要である。
・合計特殊出生率…（R3）市1.28・国1.30・県1.31、（R4）市1.11・国1.26・県1.24、(R5)市1.17・国1.20・県1.19、（R6）市1.09・国1.15・県1.15，であり、市は横ばいだが国全体で少子化が進んでいる。
・真岡市で子育てをしたいと思う親の割合…98.5%

前年度の課題（Check）

・言語発達の遅れのある児が増加しているが、現在の指導体制は言語聴覚士ではなく言語発達の課題に関する指導ができないため、言語聴覚士による指導を検討する必要がある。

7年度振り返り

【1】実績（Do）７年度に実施した事業
・保護者の意向に沿った利用勧奨
・幼稚園、保育園への訪問を実施し、行動観察及び園と情報交換を実施
・学校教育課での就学相談の案内を実施
・学校教育課、母子健康係保健師との情報交換会を実施
・言語発達に課題がある児に対し、言語聴覚士による個別指導の導入を検討

【2】結果と課題（Check）
・就学前の事業対象幼児が19名であり、延べ396回の指導を実施した。
　発達課題のある幼児のうち、事業につながった幼児の割合　15.3%
・より専門的な指導に対応するため、令和8年度から言語聴覚士による個別指導を導入した。
・各健診で発達面に課題のある児への継続的支援として実施しているが、保護者の理解が得られないため、早期の利用に繋がらないケースへの対応が課題である。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【3】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

(1) ただちに取り組むべきこと
新たに導入した言語聴覚士による指導を軸に、令和8年度から教室全体のレベルアップを図っていく。

(2) 長期的な計画で検討すること
令和8年度に言語聴覚士（ST）を配置し、毎週木曜日の指導枠を設定した。その他週3日は保育士による指導となっている。発達課題のある児に対しては、遊びを通じて指導していくことになるが、本来の目的を踏まえ、言語聴覚士など専門職の継続的な配置が望ましいと考える。